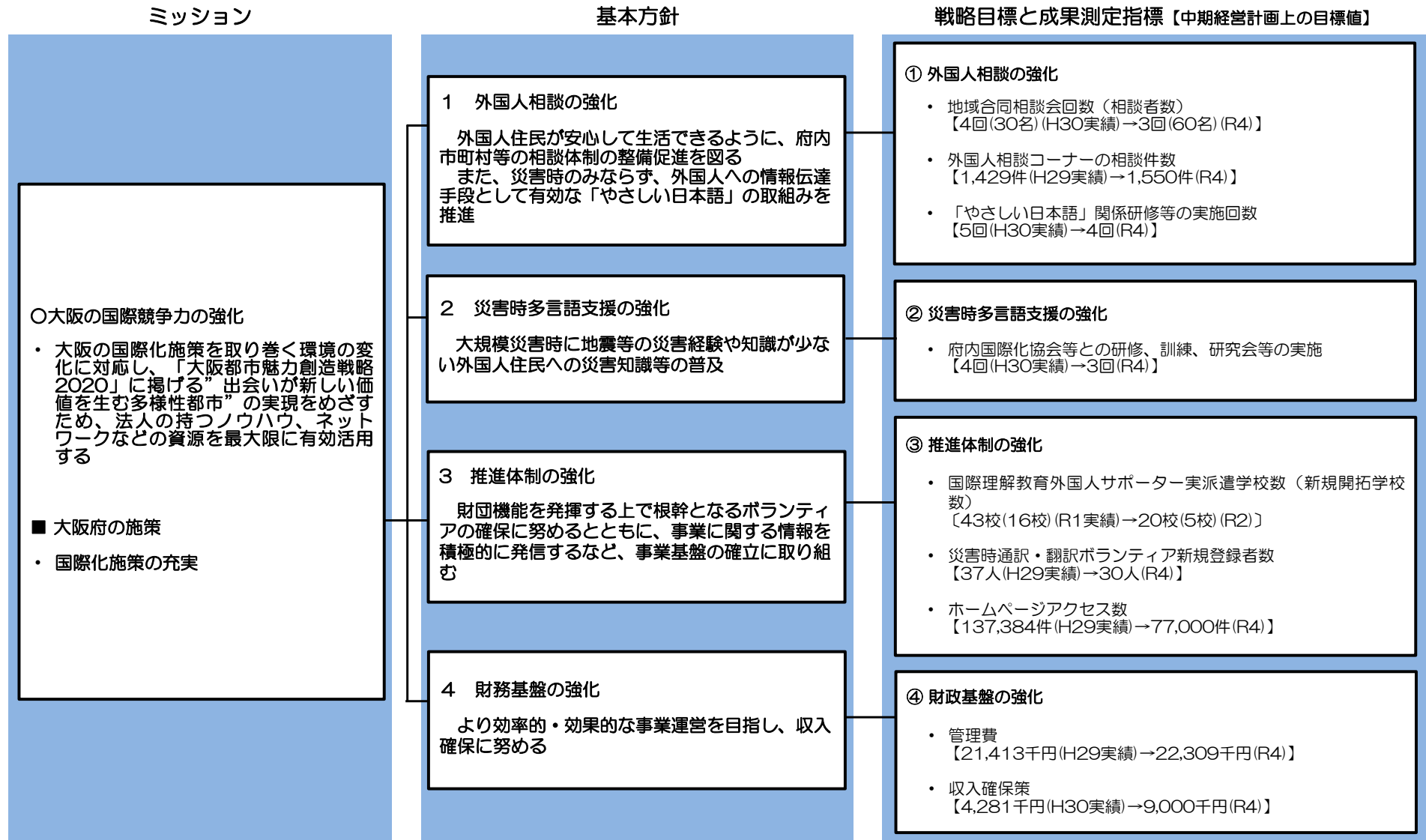


法人名	公益財団法人 大阪府国際交流財団
作成（所管課）	府民文化部 都市魅力創造局 国際課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H30~R4)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標	
① 外国人相談の強化	地域合同相談会開設回数 <相談者数>		回 <人>	30	4 <30>	3 <30> 5 ×<27>	↓3 <40>	30	3 <40>	3 <60>	新型コロナウイルスの影響のため今後の事業実施の見通しも不透明だが、開催方法の工夫などにより少なくとも中期経営計画の目標達成を目指す。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	○当財団の定款に定める事業である「外国人の受入促進・活動環境の整備」として多言語による相談・情報提供の強化を定めるとともに、中期経営計画の重点化事業として「外国人相談の強化」を掲げ、具体的なプログラムとして「地域合同相談会相談者数」及び「地域合同相談会開設数」を掲げている。										
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	○平成26年度に各市町村の外国人相談業務の実態を把握するため、「大阪府内における外国人相談のあり方に関する基礎調査」を実施したところ、外国人相談は、相談窓口の設置されている市と未設置の市では、事業への考え方に大きく隔たりがあり、二極化していることが判明した。 ○相談窓口設置済みの市では、外国人キーパーソンの発掘という運営面までも配慮が及んでいるのに対し、未設置の市ではそもそも外国人のニーズそのものが把握できていないという状況であった。 ○このため、府内各市町村等の相談体制の整備促進を図るため、これまで大阪府内の各市町村等との共催事業として「外国人一日相談会」を実施し、外国人のニーズ把握を行いながら各市町村への相談窓口の普及に努めてきた。 ○しかしながら、一部の相談会において、開催時間が短時間にとどまる、相談対象者が共催各市町村の在住者に限定されるなど、個々の条件等によって相談件数が伸び悩んでいると考えられるため、より効果的、効率的な事業をめざし、複数の各市町村との共催や行政書士等の専門家の参加を得た「地域合同相談会」を実施する。										
活動方針	○外国人の受入促進・活動環境整備には通常の外国人情報コーナーでの取り組みとともに、外国人府民に身近な各市町村での取り組みが重要である。 ○このため、大阪府(府民文化部都市魅力創造局国際課)は、「大阪都市魅力創造戦略2020」において、KPI指標として「府内外国人相談窓口常設市町村数」を掲げ、常設の外国人相談窓口を置く市町村数の増加をめざしている。当財団としても、その支援の観点も含め、相談窓口の普及を図る。										

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (H30~R4)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標		
① 外国人相談の強化	外国人情報コーナーの相談件数		件	10	1,624	1,800 2,204	↓ 2,100	10	1,550	1,550	国の外国人材受入拡大方針に伴い、今後相談件数の増加(R5年度に3千件程度を想定)が見込まれることから、目標数値を上積みしたものの。	○在住外国人を対象にした相談業務を実施 ○市町村での相談窓口サポート ○希少言語(英・中・韓以外)への対応強化
	「やさしい日本語」関係研修等の実施回数		回	10	5	3 3	3	10	3	4	新型コロナウイルスの影響のため今後の事業実施の見通しも不透明だが、開催方法の工夫などにより少なくとも中期経営計画の目標達成を目指す。(情報共有や実践的な研修を年3回実施)	○外国人への情報手段として有効な「やさしい日本語」普及への取組みを実施
② 災害時多言語支援の強化	府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施		回	10	4	2 3	3	10	2	3	中期経営計画を踏まえ、災害関係会議を含め3回の開催を目指す。	○大規模災害時における相互応援体制の構築 ○ガイドブックを活用した市町村向け研修等
③ 推進体制の強化	国際理解教育外国人サポーター 実派遣学校数 <新規開拓学校数>		校	10	35 <11>	40 <11> 43 <16>	↓ 20 ↓ <5>	10	-	-	新型コロナウイルスの影響により、学校現場からの申出が減少見込み。	○外国人留学生等をサポーターに登録し、国際理解教育授業の講師として派遣
	災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数		人	10	33	35 36	↓ 35	10	30	30	令和元年度の実績を踏まえ、中期経営計画を上回る35人を目標値とする。	○災害ボランティアへの登録促進
	ホームページアクセス数		件	5	109,830	85,000 119,183	↓ 86,000	5	77,000	77,000	今後も新型コロナウイルスの影響が続くと考えられることから4月、5月の実績を踏まえ、目標値を86,000件とする。	○ホームページやSNSなどを活用した積極的な情報発信

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 財務基盤の強化	管理費		千円	5	20,788	24,809 19,581	↓ 22,555	5	22,948	22,309	中期経営計画を上回る取り組みを行う。	○運営コスト抑制の取組みの継続
	収入確保策		千円	10	4,281	5,000 5,739	6,000	10	6,000	9,000	昨年度の実績を上回る中期経営計画の目標を目指す。	○補助金、委託金、交付金等の獲得

【凡例】

- ・☆はR2年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府国際交流財団

CS調査の実施概要

○令和元年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	75団体	各事業終了後

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	R2年度にめざす状態
令和元年度に外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施した学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒を対象に実施したアンケートの結果、「大変満足」「満足」と回答したものが、93%であった。	アンケート回収時に各学校からの要望等を聞くとともに、実施にあたっては学校のニーズに応じた設定を行い、事業の魅力向上を目指し対応している。 また、毎年各市町村等へパンフレットを配布し、事業の周知に努めるとともに財団ホームページにおいても事業の概要や派遣依頼申込書を掲載するなど、利用促進に取り組んでいる。 引き続き、実施に向けた学校側との事前打ち合わせ、調整を実施することにより、利用者ニーズの把握に努める。	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施した学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒を対象にアンケートを実施し、「大変満足」「満足」との回答の合計について、90%を目指す。

○令和2年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
グローバル人材の育成の基本事業である外国人サポーター派遣事業について、OFIXが提供する内容への満足度を調査	アンケート	外国人サポーターを活用して国際理解教育を実施する学校（教員）と実際に授業を受講した児童・生徒	50団体	各事業終了後

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
地域合同相談会開設回数 <相談者数>	回 <人>	3 <30>	5 <27>

未達成の要因と分析	<p>○令和元年度は、目標の3回実施時点で、相談者数が未達であったため、追加で2月に2回実施した。しかしながら、新型コロナウイルスの影響などもあり、来場者が想定よりも少なかったことなどから相談者数は目標値を下回った。</p> <p>○また、令和元年度から、当財団において外国人ワンストップ相談窓口として夜間や休日相談の実施や対応言語数の増加などの充実を図ったため、当該相談窓口を利用する相談者が増加したことも一因と考える。</p>
今後の改善方策	<p>○年度当初に年間計画を作成し、市町村の広報紙への掲載や市役所の窓口でのチラシ配布など広報活動を強化するとともに、外国人が参加するイベントと連携するなど効果的な周知に努める。</p> <p>○また、新型コロナウイルスへの対応を踏まえ、相談会の実施手法について検討する。</p>

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
地域合同相談会開設回数 <相談者数>	回 <人>	5 <27>	3 <40>

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○令和元年度は、目標の3回実施時点で、相談者数が未達であったため、追加で2月に2回実施した。しかしながら、新型コロナウイルスの影響などもあり、来場者が想定よりも少なかったことなどから相談者数は目標値を下回った。</p> <p>○令和2年度の目標設定にあたっては、限られた財源及び人員の中、他の事業とも調整しながら実施する必要があり、また現在、新型コロナウイルス感染拡大によりイベントや会合が開催しづらい状況にあるが、新型コロナウイルスへの対応を踏まえ実施手法を検討しながら、中期経営計画の3回（40人）の達成を目指す。</p>
-------------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
外国人情報コーナーの相談件数	件	2,204	2,100

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>国の外国人材受入拡大方針に伴い、今後相談件数の増加(R5年度に3千件程度を想定)が見込まれることから、目標数値を上積みしR2年度は2,100件と設定した。R1年度は、2、3月に新型コロナウイルス感染に関する相談が増えたため目標1800件を上回った。R2年度において4、5月はコロナ関連相談もあったが、5月以降減少傾向。また、現在の状況下では、今年度の外国人材受入は不透明のため、年間目標は2,100件とする。</p>
-------------------------	---

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
やさしい日本語関係研修等の実施回数	回	3	3

マイナス（現状維持）目標の考え方

○当財団では、やさしい日本語は外国人への有効な情報伝達手段と認識し、府内での普及を目指し研修等を実施しているところ。
○引き続き、令和2年度の目標設定にあたっては、限られた財源及び人員の中、他の事業とも調整しながら実施する必要があること、また現在、新型コロナウイルス感染拡大によりイベントや会合が開催しづらい状況にあることから、少なくとも中期経営計画の3回の実施を目指す。

〔4〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
府内国際化協会等との研修、訓練、研究会等の実施	回	3	3

マイナス（現状維持）目標の考え方

○令和元年度は、前年度のような大きな災害はなかったものの、市町村等とのネットワーク会議（2回）や、災害時多言語支援センターの設置に関する会議を実施したところであり、令和2年度においても、中期経営計画の目標値（2回）を上回る3回の実施を目指す。

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
国際理解教育外国人サポーター実派遣学校数 <新規開拓学校数>	校	43 <16>	20 <5>

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○本事業は、外国人サポーターを学校に派遣することにより、児童・生徒等の国際理解を深めるために実施しており、令和元年度は派遣学校、新規学校とも目標値を上回った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症により学校からの依頼が大きく減少することが予想されるため、令和元年度の目標値（40校<新規11校>）の1/2に設定する。</p>
------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
災害時通訳・翻訳ボランティア新規登録者数	人	36	35

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○ボランティア人材登録については、関西大学や追手門学院大学と協定を締結するなど、ボランティア確保に努めており、R元年度の新規登録者数は目標値を上回り36人となった。</p> <p>○令和2年度の目標設定にあたっては、令和元年度の実績を踏まえ、中期経営計画の目標値（30人）を上回る令和元年度の目標値と同値の35人とする。</p>
------------------	---

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔7〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値(見込値)	R2年度の目標値
ホームページアクセス数	件	119,183	86,000

マイナス（現状維持）目標の考え方

○令和元年度は、新規事業が複数あり、ホームページを通じて様々な形で情報提供を行ったことによりアクセス数が前年比約1割増であった。
○令和2年度は新型コロナウイルスの影響による事業休止等で、4、5月の情報提供が減ったことから、アクセス数は月平均7,200件（前年度比△35%）となっている。
○今後も新型コロナウイルスの影響が続くと考えられるため、4、5月の実績を踏まえ目標値を86,000件とする。

〔8〕

成果測定指標	単位	R元年度の 実績値(見込値)	R2年度の目標値
管理費	千円	19,581	22,555

マイナス（現状維持）目標の考え方

○令和元年度は、年度途中の職員退職による人件費減などにより、管理費が目標値より大きく縮減したものの。
○これまでもコピー機の契約見直しや機器のリース対応等、事務経費の削減に取り組んできたが、令和2年度は、引き続き事務の精査等、経費節減に取り組み、22,555千円と中期経営計画を上回る取組みを行う。